

J R 和歌山駅前で**社会保障改悪反対一斉署名行動**

後期高齢者の医療費窓口負担増に反対の声をあげよう

医療・介護従事者への支援を広げよう

11月26日の夕方、和歌山県社保協はJR和歌山駅前ですタンドイング行動を行い、ティッシュ配りや署名活動に取り組みました。医師で県保険医協会の龍神理事長と、同じく医師で県社保協の佐藤代表幹事にも駆けつけて頂き、医師としての立場から社会保障の拡充の必要性を宣伝カーから訴えました。

龍神理事長は、「医療は早期発見・早期治療が原則であるが、コロナの感染拡大で利用控えが起こり、結果高齢者の筋力が低下し、自宅で転倒するという事例が発生している。高齢者が安心して医療を受けられるように後期高齢者の負担増に反対していきましょう。」と訴えました。

また佐藤代表幹事からは、「菅政権の下で、自助・共助・公助が進められているが、コロナ禍での新しい生活様式では、公助をまず先に行うべきである。皆さんの力で新しい社会の実現を目指し、政治を変えましょう。」と訴えました。

県医労連からは、谷口書記次長が、「今病院も介護事業所もコロナの感染拡大で収益が落ち込み、職員は一時金を心配している。医療・介護従事者へ暖かい支援をお願いします。」と呼びかけ、現在取り組んでいる医療・福祉を支える事業所、医療・介護従事者への支援を求める要請書への協力を求めました。

**◎75歳以上の医療費窓口負担増 「議論自体が問題」 日本医師会会長**

75歳以上の医療費窓口負担の2割への引き上げをめぐって緊迫した情勢が続いています。日本医師会の中川会長は9日の記者会見の中で、政府が検討している75歳以上の医療費窓口負担の2割への引き上げに関して、新型コロナウイルスの感染が拡大する中で「受診控えによる健康への影響が懸念される」と述べ、2倍にする議論をすること自体がそもそも問題だと発言しました。

★内閣総理大臣 厚労大臣 財務大臣に対して、「緊急要請」FAXを送りましょう！